

成果の説明書

(氏名) 吉武信彦	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 以下の研究活動を行なった。 (1) 本・論文・翻訳 ・共著、担当第Ⅱ部第4章、「スウェーデン——独自路線とEU協調との狭間で——」植田隆子編『新型コロナ危機と欧州——EU・加盟10カ国と英国の対応——』文眞堂、2021年3月、154～176頁。 ・単著、「欧州統合過程におけるレファレンダム——北欧諸国の事例を中心として——」、『地域政策研究』（高崎経済大学）第23巻第4号、2021年3月、37～62頁。 ・共訳、担当第2章、「『壁』とその影——境界地域のセキュリティ——」マシュー・ロンゴ『国境の思想——ビッグデータ時代の主権・セキュリティ・市民——』庄司克宏監訳、岩波書店、2020年12月、58～89頁。 (2) 学会報告など ・報告、「欧州統合過程におけるレファレンダム——北欧諸国の事例を中心として」、日本国際政治学会部会14「レファレンダムと国際政治——民主主義と地域的秩序の共振」、オンライン開催、2020年10月25日。 (3) その他 ・単著、エッセー、「＜世界の街角から＞スウェーデンとノルウェーから ノーベル賞の季節」『改革者』（政策研究フォーラム）第723号、2020年10月、51頁。 ・単著、エッセー、「＜世界の街角から＞デンマークから コロナ禍とコペンハーゲン空港」『改革者』（政策研究フォーラム）第728号、2021年3月、43頁。 ・津田塾大学大学院国際関係学研究科博士論文の審査委員（2020年9月まで） ・北ヨーロッパ学会第19回研究大会 大会企画委員長、オンライン開催、幹事校は高崎経済大学、2020年11月7日。	
2 その他の事項 特になし。	
3 次年度以降の計画・抱負 2020年度はコロナ禍に翻弄された1年であった。講義の準備に膨大な時間をとられ、講義、演習も試行錯誤の連続であった。履修者に多大なご迷惑をおかけした。 2021年度もコロナ禍の終息は見通せない。講義、演習においてコロナ感染を発生させないよう、細心の注意を払いたい。その中で、4年生の演習においては、質の高い卒	

業論文の完成を目指す。また、3年生の演習においても、将来につながる基礎的な教育を積み重ねたい。そのためにも、専門書の読破、討論、プレゼンテーションの機会を多く設ける予定である。

研究面では、フィールドワークに基づいた研究を着実に実施したいと考えているが、コロナ禍で調査の出張が困難な状況にある。現時点でできることを行い、将来に向けて研究基盤を整えたい。